学校法人安城学園 寄附行為(抜粋)

第1章 総則

(名称)

第1条 本法人は「学校法人安城学園」と称する。

(事務所)

第2条 本法人は事務所を愛知県安城市小堤町4番25号に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 本法人の主たる目的は、「建学の理念」と「建学の精神」と「真心・努力・ 奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して、創立者が目指した経済的・政治的・文化 的に自立できる社会人を育成することによって、地域と国際社会に貢献すること である。

(建学の理念)

第4条 本法人の建学の理念は「庶民性と先見性」である。

(建学の精神)

- 第5条 本法人の建学の精神は、「生命体構想」に基づき、「宇宙の中の一つの生命体である人が、個人として自立しつつありとあらゆる生命体と共生することによって、生きる意志と生きる力と生きる歓びに満ち溢れた鵬のような大局的な存在となること」である。
- 2 学校法人安城学園の設置校の歴史と伝統を踏まえ、かつ「設立時の建学の精神」 の基礎の上に立って、建学の精神を理解し、実践することが肝要である。

(本学園の主たる事業)

- 第6条 本法人は、第3条の目的を実現するために、次の各号に掲げる事業を行う。
- (1) こどもの潜在能力開発事業
- (2) おとなの潜在能力開発事業
- (3) 地域の潜在能力開発事業

(設置する学校)

- 第7条 本法人は、第6条に掲げた事業を推進するために、次に掲げる学校を設置する。
- (1) 爱知学泉大学
- イ 家政学部 家政学科
- ロ 現代マネジメント学部 現代マネジメント学科
- (2) 愛知学泉短期大学
 - イ 食物栄養学科
 - 口 幼児教育学科
- ハ 生活デザイン総合学科
- (3) 安城学園高等学校(全日制課程)
- イ 普通科
- 口 商業科
- (4) 岡崎城西高等学校(全日制課程)

イ 普通科

- (5) 安城学園愛知学泉短期大学附属幼稚園
- (6) 安城学園愛知学泉大学附属幼稚園
- (7) 安城学園愛知学泉大学附属桜井幼稚園

(行動指針)

- 第8条 本法人は、本法人の事業を推進するにあたって、「学校法人安城学園教職員 憲章」に従って行動する。
- 2 本法人は、本法人の事業を推進するにあたって、教育基本法・学校教育法・私立 学校法をはじめとする関係法令に従って行動する。

(教育方針)

- 第9条 本法人は、「智・徳・体・感・行」に基づいた学修(学習)システムと自学・ 共学システムを開発し、これに基づいて本法人の事業を行う。
- 2 前項の学修(学習)システムは、智性を鍛えるプログラム、徳性を鍛えるプログラム、身体を鍛えるプログラム、感性を鍛えるプログラム、行動を鍛えるプログラム、行動を鍛えるプログラムを構成要素とする。

学校法人安城学園 用語集

■ 庶民性

「庶民性」とは、「民が栄えてはじめて国も富む」という思想を意味する。そして、 民が栄えるためには学問を庶民の間に広めていくこと及び学問を修めた者がその成 果を地域と社会に還元していくことが不可欠である。これが教育における「庶民性」 である。この思想は、本法人において「創立者の信念」と「創立者の教育信条」の原 点になっている。

さらに、本法人の場合、「女性の社会的地位の向上」が立学の趣旨であるので、この「庶民性」には「経済的自立・共生」とともに「政治的自立・共生」と「文化的自立・共生」、つまり「オイコス・ノモス」=「家政」という意味が込められている。

■ 先見性

「先見性」とは、来るべき社会・来るべき時代・来るべき文明を想定して教育の理想像を描くことができること、その理想像の達成のために必要なものを粘り強く追求することができること、その理想像の実現に向けて全知全能を傾注できることを意味する。

■ 生命体構想

「生命体構想」とは、「宇宙の中の一つの生命体である人が、個人として自立しつつありとあらゆる生命体と共生することによって、生きる意志と生きる力と生きる歓びに満ち溢れた鵬のような大局的な存在となること」に基づいて教育を構想することを意味する。これは、荘子の「鵬」及びニーチェの「超人」をモチーフとして、法人の中興の祖である元理事長寺部清毅によって作られた。そして、創立85周年を機に作られた学園歌「いまここに」はこの「生命体構想」をモチーフに作詞されている。

■ 創立者の信念

「創立者の信念」とは、「男に生まれようと女に生まれようと、この世に生を受けた限り誰でも無限の可能性を持っている。」という信念を意味する。

■ 創立者の教育信条

「創立者の教育信条」とは、創立者の信念に基づいて、「一人ひとりの潜在能力を可能性の限界まで引き出すのが教育である。」という教育に関する信条を意味する。

■ 設立時の建学の精神

設立時の建学の精神は以下の通りである。

(1) 安城学園高等学校、愛知学泉短期大学、愛知学泉短期大学附属幼稚園、愛知学泉大学、愛知学泉大学附属幼稚園、愛知学泉大学附属桜井幼稚園の建学の精神「本学の歴史は、明治45年創立者寺部三蔵・寺部だいが、官尊民卑・男尊女卑の風潮に対して、技術の習得を通して女性の社会的地位の向上を図ったのに始まる。

創立者は女性の潜在能力の無限性を信じ、その潜在能力を可能性の限界まで引き出すことを終生の信条とし、真心・努力・奉仕・感謝の四大精神の実践によって自らも幾多の困苦を乗り越えてそれを具現した。

本学は、この創立者の精神に基づいて、家庭と社会に温い心と新しい息吹を 与えることのできる人間を育成することを教育の基本理念としている。

本学園歌に謳われている理想像「永遠の女」とは、この建学の精神を象徴したものに外ならない。」(元理事長 寺部清毅 直筆)である。

(2) 岡崎城西高等学校の建学の精神

「本校は、昭和37年4月学校法人安城学園(学園長故寺部だい先生)がその創立50周年を記念して、教育への熱烈な情熱と地域の強い要望により国家社会有用の人材の開発育成を目途として設立した男子高校である。

創設者は、人間能力発展の無限性を確信し、その潜在する能力の可能性の限 界までの伸展を終生の教育の信条とし、本校の設立にあたって、三河武士の伝統「質実剛健」「己に克つ」の実践、勇気と努力を以て困難に立ちむかう「剛毅 闊達」な人間の育成を念願とした。

これが本校の建学の精神であり、本校の教育のすべてがここに発し、ここに結集される。」(元理事長 寺部清毅 直筆)である。

■ 教育

「教育」とは、一人ひとりの潜在能力を可能性の限界まで引き出すことである。 (創立者の教育信条)

■「智・徳・体・感・行」

「智・徳・体・感・行」とは、「これからの社会では、智性を鍛えること・徳性を鍛えること・身体を鍛えること・感性を鍛えることに加えて行動を鍛えることが必要である。」という考え方に基づいて、明治以来の学校教育モデル「知・徳・体」の「知」を「智」とし、感性を意味する「感」を加え、さらに「行動」を意味する「行」加えた学修(学習)モデルのことを意味する。

■ 4つのステージ

「4つのステージ」とは、以下のことを意味する。

- ◎ 第一ステージ
 - 正課活動が展開される学校の中の場所と時間
- ◎ 第二ステージ課外活動が展開される学校の中の場所と時間
- ◎ 第三ステージ
- 正課活動(課外活動)が展開される日本の地域の中場所と時間

 ⑥ 第四ステージ
 - 正課活動 (課外活動) が展開される日本の外の場所と時間

■ 3つの挑戦

「3つの挑戦」とは、以下のことを意味する。

- ◎ 第一の挑戦(苦手への挑戦)苦手なものを克服するための挑戦
- ◎ 第二の挑戦 (上達への挑戦)得意なものをさらに上達させるための挑戦
- ◎ 第三の挑戦(未知への挑戦)未だ知らない自己に遭遇するための挑戦

■ 課題解決型行動特性

「課題解決型行動特性」とは、複数の人々が互いに協力・協働して共通の課題等を解決していくにあたって、一人ひとりのメンバーに要求される「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」という3つの能力を統合した社会人基礎力のことである。

■ 課題解決型学力

「課題解決型学力」とは、3つの力(課題を解決するために必要な知識・情報等の資源を獲得する力、獲得した知識・情報等の資源を活用する力、獲得した知識・情報等の資源を活用して課題を解決する力)を統合した pisa 型学力のことである。

■ 自然体

「自然体」とは、日本を含む東洋において古くから重要視されてきた伝統的な身体知のことである。これは、「心・技・体」の一致、「陰・陽」のバランスなどなど身体の理想的なあり方を示している。「身心一如」と言ってもよい。身体をなおざりにしてきた日本の近代化に対する反省に基づいて、失われつつある身体感覚を取り戻し、来るべき時代の庶民の身体文化を再構築する上で不可欠なコンセプトである。

3つのポリシー(三つの方針)について

改革の実行に当たり、もっとも重要なのは、各大学が、教学経営において、「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、そして「入学者受入れの方針」の三つの方針を明確にして示すことである。これらは、将来像答申で言及した「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」にそれぞれ対応する。大学の個性・特色とは、そうした方針において具体的に反映されるのである。

※ 中央教育審議会 答申「学士課程教育の構築に向けて」(平成20年12月24日)より

成熟社会において学生に求められる能力をどのようなプログラムで育成するか(学位授与の方針)を明示し、その方針に従ったプログラム全体の中で個々の授業科目は能力育成のどの部分を担うかを担当教員が認識し、他の授業科目と連携し関連し合いながら組織的に教育を展開すること、その成果をプログラム共通の考え方や尺度(「アセスメント・ポリシー」)に則って評価し、その結果をプログラムの改善・進化につなげるという改革サイクルが回る構造を定着させることが必要である。

※ 中央教育審議会 答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」(平成 24 年 8 月 28 日)より

○ 3つのポリシーの基本的な考え方

ディプロマ・ ポリシー (DP)	各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。
カリキュラム・ ポリシー (CP)	ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。
アドミッション・ ポリシー (AP)	各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果(「学力の3要素」についてどのような成果を求めるか)を示すもの。

※ 文部科学省 中央教育審議会 大学分科会 大学教育部会「『卒業認定・学位授与の方針』、『教育課程編成・実施の方針』及び『入学者受入れの方針』の策定及び運用に関するガイドライン」(平成 28 年 3 月 31 日)より

「学力の3要素」をバランスよく育むため、 学校全体でカリキュラム・マネジメント推進を

横浜国立大学 名誉教授 髙木展郎

次期学習指導要領の重要な概念として位置づけられているカリキュラム・マネジメント。 今、カリキュラム・マネジメントが求められている理由や、実施に向けたポイントとは何か。中央教育審議会に 設置された教育課程企画特別部会の委員を務める、髙木展郎横浜国立大学名誉教授に話を聞いた。

今なぜカリキュラム・マネジメントか?

資質・能力の育成を踏まえた 教育への抜本的な転換を図る

これまでの日本の教育は、我が国の成長と発展を支える人材を輩出し、素晴らしい成果を上げてきました。しかし、人工知能(AI)やIoT*の進展により、今や世界の社会構造は大きな転換期を迎えています。社会が変われば、求められる学力も変わりますから、学校教育も変化していかなければなりません。

学習指導要領の改訂に向けては、20年先、30年先の社会を生きていく子どもたちに、どのような力を身につけさせるべきか、これまで議論を重ねてきました。2007年には学校教育法が改正され、「学力の3要素」として「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」が定義されるなど、学力観の転換が図られました。この3要素をバランスよく育むことが、学校教育に求められるようになったのです。

しかし、学校現場では、知識・技能重視の意識から脱却することは難しく、新しい学力観に立脚した教育が十分に推進されたとは言い難いのが実情です。文部科学省「全国学力・学習状況調査」では、小・中学校ともに学力の底上げが見られる一方で、記述式問題では依然として無解答が

多いことが課題となっています。

そこで、次期学習指導要領では、各教科で育む知識・技能に加え、「思考力・判断力・表現力等」と「学びに向かう力、人間性等」もバランスよく育むため、「学力」として育成を目指す資質・能力を再整理した「資質・能力の体系」を「総則」で示す予定です。その中では、汎用性のある資質・能力も、各教科の授業を通して育成するものと位置づけられます。

各学校では、「資質・能力の体系」 を示した学習指導要領を基に、自校 の教育目標や子どもの実態、地域の 実情を踏まえて、学校全体で教育課 程、つまりカリキュラムを編成する ことになります。これまでのカリキュ ラムは、国語や算数など教科の学習 内容の編成が中心でした。しかしこ れからは、全教科で、教科の学習内 容とともに、どのような資質・能力 を育むのかも含めたカリキュラムを 作成しなくてはなりません。そして、 それを基に授業を行い、成果を評価 し、カリキュラムの再構成や授業改 善につなげることで新たな教育を築 いていく。それが、カリキュラム・ マネジメントなのです。

これまでの知識・技能に加えて、 主体性や思考力などの汎用性のある 資質・能力も学校で育成していくと なると、授業のあり方を見直す必要が あります。そして、その育成を各教科



たかぎ・のぶお 兵庫教育大学大学院学校教育 研究科言語系修了。専門は教育方法学、国語科教育学。東京都公立中学校教諭、神奈川県立高校教諭、筑波大学附属駒場中・高校教諭、福井大学、静岡大学を経て、2016年3月まで横浜国立大学。近著に『「これからの時代に求められる資質・能力の育成」とは』(東洋館出版社)、『「チーム学校」を創る』(共著)、『変わる学力、変える授業。一21世紀を生き抜く力とは一』(ともに三省堂)。

で意図的・計画的にカリキュラムに 組み込んでいかないと、授業時数内 に収まらなくなってしまいます。こ こに、カリキュラム・マネジメント を行うもう一つの理由があります。

カリキュラム・マネジメントの考え方 学校全体で、教科を超えて 各教科のカリキュラムを考える

カリキュラム・マネジメントで具 体的に求められることについて、次

* Internet of Things の略。スマートフォンやパソコンだけでなく、様々な物に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり、相互に通信したりして、自動制御や情報収集などを行うこと。

期学習指導要領についての中央教育 審議会の答申(2016年12月)では、 3つの側面にまとめています(図1)。

最も重要な側面は、①の各校が自校の目標に沿って、教科等横断的な視点でカリキュラムを編成することです。資質・能力は、特定の教科にとどまらず全教科で育むものです。例えば、言語能力を育むために記録・要約・説明などの言語活動の充実が図られていますが、これは国語に限らず、算数・数学や理科などの授業でも行うべきものです。

また、学校では、教科書に掲載された順に、出版社が示した指導時数に従って、年間カリキュラムを作成することが多いと思います。しかし、学習指導要領には、学ぶ内容と年間の総授業時数が示されているだけで、「いつ、何を行うか」という順序は規定されていません。「教科書の掲載順に進めないと」「教科書を全部終わらせなければ」と教科書に縛られるのではなく、自校の子どもの実態や教育目標に応じて、各教科の学習内容を編成することが重要なのです。

上記の理由から、学校全体で教科 を超えて、独自に各教科のカリキュ ラムを考える必要があります。

2つめの側面は、自校の子供たちの実態や地域の現状に応じて、各校が創意工夫をして特色ある教育を進めるために、PDCAサイクルを確立することです。そのために、まず作成したいのが「学校のグランドデザイン」です。学校教育目標や重点目標を出発点として、図2のイメージ図を基に「何を学ぶか」「どのように学ぶか」などの項目を具体化しておけば、それを達成するための活動内容を考えやすくなります。

学校教育目標は、校訓や建学の精神といったものではなく、目の前の子どもを見取り、小学校なら6年間、

図1 カリキュラム・マネジメントの3つの側面

- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた**教科等横断的な視点で、**その目標の達成に必要な教育の内容を**組織的に配列**していくこと。
- ②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ 等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の**PDCAサイクル** を確立すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用 しながら効果的に組み合わせること。
- *文部科学省中央教育審議会教育課程部会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(2016年12月)を基に編集部で作成

カリキュラム・マネジメントのイメージ 図2 何ができるようになるか 何が身についたか 学校教育の基本 学習評価を通じた学習指導の改善 子どもの実態 子どもの発達を 目指す子どもの姿 どのように支援するか 子どもの発達の支援 何を学ぶか どのように学ぶか 特別な配慮を必要とする 教育課程の編成 子どもへの指導 教育課程の実施 実施するために何が必要か 学校の指導体制の充実 家庭・地域との連携・協働

教育課程の構造や、新しい時代に求められる資質・能力のあり方、アクティブ・ラーニングの考え方などについては、学習指導要領の「総則」に盛り込まれる予定。上記の図を基に、「学校教育目標」や「重点目標」を出発点として、学校のグランドデザインを示すことが、これからは求められる。

*文部科学省中央教育審議会教育課程部会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(2016年12月)を基に編集部で作成

中学校なら3年間でどのような子どもを育てたいのか具体的に表すことが大切です。また、グランドが多いは、管理職がつくることが多の・対してすが、子どもと日々接するの・学なもと日々をまえるととのまえるととのようなければ、先生たちに自校さん。そうすれば、先生たちに自校はできたいのかを明確化させるというとはさせたいのかを明確化さど、身につけさせたい学力を意識した指導が行えるようになります。

3つめの側面は、地域の特色に根差し、地域の資源を活用したカリキュラムの実現です。子どもに育んでいく資質・能力は、社会で活躍するためにつけてほしい力です。子どもに

学びと社会のつながりを意識させる ために、地域と連携したカリキュラ ムにすべきでしょう。さらに、学校 だけで教育を完結させるのではなく、 学校の教育活動を地域の人たちに示 し、理解を得て、意識や方向性を共 有していくことが大切になります。

カリキュラム作成のポイント

単元ごとに指導計画を作り、 指導と評価の一体化を図る

カリキュラム作成のポイントをい くつか挙げましょう。

まず、各教科で単元ごとに学習指 導案を作成することです。次期学習 指導要領では「どのように学ぶか」 が重視され、「主体的・対話的で深い 学び」の実現が求められています。

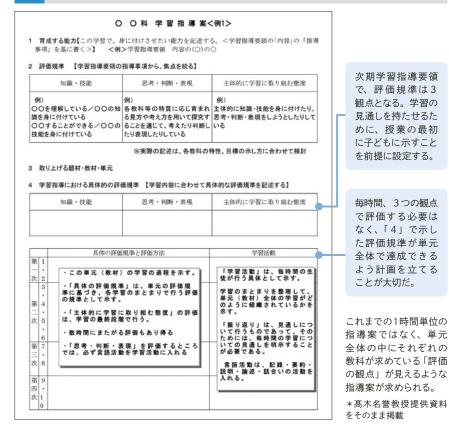
軸となる学習の流れは、まず自分で 考え (主体的)、他者との対話によっ てその考えを相対化し(対話的)、考 えを形成・表現する (深い学び) と なりますが、それは1時間単位の授 業の中ですべて行えるものではあり ません。単元や題材のまとまりの中 で、学習を見通す場面、学びを振り 返る場面、グループなどで対話する 場面、子どもが考える場面、教員が 教える場面などを、うまく組み立てる ことで実現されるものです。各学校 では、1時間単位の指導案を作成する 傾向にありますが、毎時間、導入で 課題を設定し完結させるのは大変で すし、毎時間の指導案を作成するの にも大変な労力がかかります。

必要なのは、次期学習指導要領で提示された3観点で単元全体の評価規準を明確にし、それを達成するために各時間の学習活動を設定し、そこに具体的な評価規準を当てはめることで、指導と評価を一体化させた学習指導案です(図3)。この学習指導案です(図3)。この学習指導案ですがります。これを基に、教員は学級の実態に応じて、各回の授業をつくっていけばよいのです。

このようにお話しすると、「内容がシンプルすぎて大丈夫か」と言われそうですが、この方がむしろ外してはならない大切なことが焦点化され、指導がしやすくなります。もし達成できていない部分があれば、年間カリキュラムにもう一度組み込み、改めて定着を図ります。そのようにPDCAサイクルを回しながら、目の前の子どもに合った授業を行い、教育の質を向上させていくことが、カリキュラム・マネジメントになるのです。

このように単元計画を積み上げて できた年間カリキュラムは、学校の 財産となります。この学校独自のカ

図3 単元ごとの学習指導案のフォーマット例



リキュラムを基に指導することで、 教員間の指導のぶれが小さくなるだけでなく、教員の異動があっても、 その学校で身につけるべき力を育成 することが可能になります。

「すべての単元のカリキュラムを作成するのは難しい」という声もありますが、学習指導要領は約10年に一度の改訂ですから、一度作成すれば、今後10年間はそのカリキュラムを見直しながら授業を進められます。

また、「学びのプラン」(単元の学習指導案を子ども向けにアレンジしたもの)を子どもに提示して、見通しを持たせることも大切です。その際、内容や手順だけでなく、単元の評価規準や評価方法も示して、学びの「見える化」をします。この「学びのプラン」をノートに貼らせれば、「めあて」の実質化につながり、子どもは今の学びに目的意識と見通しを持って取り組めるようになり、授業

の質が劇的に高まるでしょう。

教育委員会の役割

学校全体でカリキュラムを 構築する重要性を周知する

カリキュラムの編成は学校ごとに 行うものですが、義務教育段階では、 小・中の教員が9年間の学びの系統 性を意識しながら指導することも大 切です。小・中9年間を見通したカ リキュラムをつくるためには、教育 委員会の支援が必要となるでしょう。

繰り返しになりますが、今後、学校で教科学力のみならず、汎用性のある資質・能力まで育成するには、1時間単位ではなく、単元ベースで意図的・計画的にカリキュラムに組み込む必要があります。それを全体で推進できるよう、教育委員会には、研修などを通してカリキュラム・マネジメントの重要性を学校現場に浸透させていただきたいと思います。

週	学修内容	授業の 実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習•復習	時間 (分)	能力名
1週	オリエンテーション、栄養教育の概念を理解、社会人基礎力の発揮法、「自己の契約」を設定する。	成する「自己の契約」 の作成と契約内容を	社会人基礎力の実践法	無限の可能性への 道、シラバス、テキスト p()を読み、	180	主体性発信力実行力傾聴力
2週 /	行動科学の理論とモデル① 刺激一反応理論、ヘルスビリー フモデル、トランスセオレティカ ルモデルの理解と活用法の提案	Pre-test、 講義、ペアで活用例 を考案し、その後全 体へ発表	オレティカルモデルを理解	次週の予習をテキスト	180	実行力 創造力 発信力 規律性
3週 /	計画的行動理論、社会的認知 理論、ソーシャルサポートの理解	Pre-test、 講義、ペアで活用例 を考案し、その後全 体へ発表	时遇的11 勤牲福、任会的	本時の復習をする 次週の予習をテキスト p()と配布資 料でする	180	実行力 創造力 発信力 規律性
4週 /	行動科学の理論とモデル③ イノベーション普及理論、コミュ ニケーション理論の理解と活用 法の提案	講義、ペアで活用例	コファってケー・ノコンが押盤	2週〜4 週までの復習 をする	100	実行力 創造力 発信力 規律性
5週	行動科学の理論とモデル④ 症例を元に①~③の理論とモデ ル理解を深め、活用法を広げる	到達度確認テストによる行動科学の理論と モデル①~③振り返 り	到達度確認テストで6割以 上理解している	本時の復習をする 次週の予習をテキスト p()と配布資 料でする		主体性 実行力 課題 見力規 律性
0週	栄養カウンセリング 行動カウンセリング、ラポールの 形成、カウンセリングの基礎的技 法、行動分析の理解と活用法の 提案	Pre-test、 講義、ペアで活用例 を考案し、その後全 体へ発表	しいさん	本時の復習をする 次週の予習をテキスト p()と配布資 料でする	180	実行力 創造力 発信力 規律性
7週 /	行動技法(刺激統制法、反応妨害・拮抗法、オペラント、認知再		仇法、オヘフント強化を理 解 説明できる	本時の復習をする 次週の予習をテキスト p()と配布資 料でする	180	実行力 創造力 発信力 規律性
8週	目標宣言、セルフモニタリング、 自己効力感、ストレスマネジメン		ンク、目 己 効 刀 感 を 埋 解	6 週〜8 週までの復習 をする	180	実行力力 発信力 規律性 規律性

能力名:主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の 実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習•復習	時間 (分)	能力名
9週 /	栄養カウンセリング、行動変容技 法について症例をもとに理解を 深め、活用法を広げる	到達度確認テスト、症例への栄養カウンセリングと行動変容技法の活用法を考案する	到達度確認テストで 6 割以 上理解できる	本時の復習をする 次週の予習をテキスト p()と配布資 料でする		主体性 実行力 課題発 見力 規律性
	組織・地域づくりへの展開と食環境づくりの関連の理解と活用法の提案	講義、ペアで活用例 を考案し、その後全	セルフヘルプグループ、グ ループダイナミックス、エン パワメント、食物・情報への アセスメントを理解できる	次週の予習をテキスト p()と配布資	180	実行力 創造力 発信力 規律性
/	栄養教育マネジメント① 栄養教育の目標設定(実施・学習・行動・環境・結果目標)とプログラムの実施(モニタリング、実施記録)の提案	Pre-test、 講義、ペアで活用例 を考案し、その後全 体へ発表	栄養教育の目標設定がで きる	本時の復習をする 次週の予習をテキスト p()と配布資 料でする	180	実行力 創造力 発信力 規律性
	栄養教育マネジメント② 栄養教育計画立案(学習者・時間・場所の設定、教材の選択と 作成、学習形態の選択)の理解	立案を考え、その後	きる	本時の復習をする 次週の予習をテキスト p()と配布資 料でする	180	実行力 創造力 発信力 規律性
		Pre-test、 講義、栄養計画案を 用いて栄養評価法を 提案、その後全体へ 発表	かできる	本時の復習をする 次週の予習をテキスト p()と配布資 料でする	180	実行力 創造力 発信力 規律性
/	栄養教育マネジメント④ プリシード・プロシードモデル、ソ ーシャルマーケティングの理解と 活用法	Pre-test、 講義、プリシード・プロ シードモデルの症例 を元にディスカッショ ン	プリシード・プロシードモデ ルの活用段階を理解でき る	本時の復習をする 次週の予習をテキスト p()と配布資 料でする	180	実行力 創造力 発信力 規律性
15 週		講義、活用法につい てペアーワーク後、発 表、 Post-tast	1字. 亩 明• 5 春 明 67 8 明	に到達する復習をす	180	実行力 創造力 発信力 規律性
能力名	:主体性 働きかけ力 実行力	課題発見力 計画力	創造力 発信力 傾聴力	力 柔軟性 情況把握	カ	規律性

能力名:主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力

保護者負担額

2017/6/23

学園	城西

項目	単位	回数	単価	年額	単価	年額
入学金	年	1	200,000	200,000	200,000	200,000
授業料	月	12	31,000	372,000	31,000	372,000
施設設備費	月	12	3,000	36,000	3,000	36,000
進路指導費	月	12	0	0	400	4,800
冷暖房費	年	2	2,000	4,000	3,000	6,000
学生生徒等納付金 1年	年	1	1	612,000	1	618,800
学生生徒等納付金 2年	年	1	1	412,000	1	418,800
学生生徒等納付金 3年	年	1	1	412,000	1	418,800
I.学生生徒等納付金 平均	年	1	1	478,667	1	485,467

項目	単位	回数	単価	年額	単価	年額
入学検定料	年	1	15,000	15,000	15,000	15,000
入学検定料 1年	年	1	1	15,000	1	15,000
入学検定料 2年	年	0	0	0	0	0
入学検定料 3年	年	0	0	0	0	0
Ⅱ.手数料 平均	年	1	1	5,000	1	5,000

項目	単位	回数	単価	年額	単価	年額
PTA入会金	年	1	1,500	1,500	2,400	2,400
PTA会費	月	12	1,250	15,000	1,000	12,000
PTA入会金+PTA会費 1年	年	1	1	16,500	1	14,400
PTA会費 2年	年	1	1	15,000	1	12,000
PTA会費 3年	年	1	1	15,000	1	12,000
Ⅲ.寄付金 平均	年	1	1	15,500	1	12,800

保護者負担合計(3ヶ年平均)	499,167	503,267
----------------	---------	---------